

論説 云われなきなき中傷に反論する

最近、アークと、近隣の「ハッピーハウス」という組織とを混同する方がいるようです。この際、はっきりと申し上げておきますが、アークとハッピーハウスとは一切関係ありません。現在はもちろん、過去にも、何の関連もありません。アークの活動目的、方針、システムは、まったく異なっています。両者を公平な目で比較するためには、あてつけがましい非難や噂にまどわされずに、皆さまが二つの施設を（予告なしに）訪問して、自ら判断していただくことをおすすめします。

しかし、私どもがどうしても無視できない問題が一つあります。ハッピーハウスの関係者がアークについてわざとうそを言い触らしていることです。いろいろとネットワークの付き合いの中でそういう情報が寄せられます。私どもは、ハッピーハウスを捜している人に行き方を教えてあげますが、彼らは違います。アークに行こうとして道を間違え、ハッピーハウスに着いてしまった人は、こう言われてショックを受けます。「ペットをアークに連れて行くのはおやめなさい。きっと殺されてしまいますよ」と。

もし、彼らの言うことが真実で、アークにいる動物のうち、里親に出せないものは全部すぐに処分してしまうのであれば、頭数がたちまち半減して、私どもの

負担もずいぶん軽くなることでしょう。実は、預かっている動物の約半数は里親にめぐり合うチャンスがほとんどないか、皆無なのです。年をとり過ぎていたり、虚弱であるとか、永続的に獣医師の治療が必要だったりするからです。または、人見知りが激しいとか、あまりにも神経質で一般の家庭では暮らせないのがあります。たまには、このような動物を進んで受け入れて下さる立派な方が現われることもあり、こんな時は、当然ながら、私どもも、その子に里親が決まったことを喜び、「選ばれて本当によかった」と思いますが、実際は、そんな心やさしい人が減多にいるはずもなく、きわめて珍しいのです。

痛みがひどかったり、癌など治る見込みのない病気にかかっていることが明らかな

場合、私どもが動物を安楽死させる

ことが

あるのは事実です。しかし、この決断はあくまでも慎重になされます。世話係の職員と詳細にわたってよく話し合い、また、治療にあたっている獣医師の意見をきいた上で検討し、判断されるのです。

保健所のガス室で行なわれる殺処分は、この上もなく残酷で無慈悲であり、恐怖におびえる動物は、自分が殺される運命にあることを十分に察知しています。一方、有資格の獣医師による安楽死は（通常の手術の場合と同様、静脈に麻酔薬を注入しますから）、最も安らかな最期だといえます。動物は深い眠りに入っていって、ただ違うのは、そのまま二度と目覚めることがないということです。いつもと変わらない環境の中で、愛情をそそいでくれるやさしい人たちに見守られて、静かに息を引きとるのです。

足を引っ張るような噂とうそは、動物福祉を推進しようとする動きを全般的に損なうものです。とりわけ、まだまだ多くの助けが必要な日本の恵まれない動物にとって悲しむべきことです。また、私どもの活動をことあるごとに妨害し、あらさがしに躍起になっている人たちを相手にしなければならぬのは、貴重な時間とエネルギーの無駄遣いにほかなりません。私どもの運営方法に疑念を抱く方は、是非、アークにお出かけ下さい。現地に来て、私どものやり方をご自分の目で見て下さるようお願い致します。

オリバーエリザベス

